

美しさを磨く自然体験

私は15歳でデビューし、東京で芸能活動をしていました。22歳で身体を壊し長期療養。その後、栄養士の専門学校、大学進学、大学の卒業は30歳の時でした。現在は故郷の佐賀県でシングルマザーとして9歳の息子を育てています。

息子が大きくなるにつれて公園や山、川に行く機会が増えます。けれど以前の私はアウトドアを積極的に行っておらず、むしろ外で遊ぶことに抵抗を感じていました。「こんなとき旦那がいたら」なんて思うこともしばしばありましたが、現実そうもいっていただけません。自然の中で夢中になる息子をみて、危険な場面は多々ありました。マムシに遭遇して間一髪逃れられたこと、焚き火の最中、石が火の中から飛んできて危うく燃え移りそうになったこと。キヤーキヤー言っているだけでは務まらない事態を何度か経験した事がきっかけとなり、安心・安全に外で遊ぶためには子を守る立場の保護者こそがきちんとした野外の知識を得る必要性を感じました。つまり私は我が子を守る手段のためにキャンプインストラクターの資格を取りました。

キャンプインストラクターを取得後、そこで出会った野外のエキスパートの仲間たちと交流するうちに、そこに居心地のよさを感じました。キャンプ仲間という私にとって新しいジャンルの友人ができたことで、キャンプをする機会が増えました。当然、子どもは大喜びであると同時に、私自身もキャンプインストラクターの講習で受けた知識と経験のおかげで自信を持って自然の中で過ごすことができました。

「体験は自分の性格の一部を形成している」という言葉があります。おいしいものを食べたり、よいホテルに泊まったりすることも体験の1つではありますが、キャンプは自分の知恵と知識で0から作り上げていく過ごし方です。これはそもそも人間の形であり、極めて人間的な行為ではないでしょうか。これまでたくさんの自然体験によって文化や文明が作られ、体験から得た発見と感動で自己の性格が作られて

います。私は30歳を過ぎてキャンプ体験をしました。キャンプ体験をしたことで楽しい思い出はもちろん、すばらしい仲間と出会い、これまで凝り固まっていた固定観念が取り除かれると共に受け入れられる価値観が増え、自分を好きになることができました。思い返せば芸能活動をしていた10代の頃にキャンプに出会いたかった。もしあの時、キャンプの体験をしていたら、自然に心を委ねることで精神的にも余裕ができて多くの問題が解決できたのではないだろうか。また広がった価値観で表現力の向上にもつながったのでは、とタラレバ話をするほどキャンプは生きる力や生きる希望をダイレクトに感じられる、心のケアと成長に寄与する最適な体験です。

私はキャンプで養った自己形成を多くの人に体感してもらいたいと考え、自身が行う育成事業ミスコンテストのトレーニングプログラム(ビューティーキャンプ)の中に組織キャンプ講座を用いました。スピーチやウォーキング、メイクといった第1印象で伝わる「美」の部分だけでなく、生きるノウハウやいざというときの知識といった人間生活に必要な教養を備えることで、内面を磨き上げるトレーニングとして活用しています。彼女たちは、普段の緊張から解き放たれ、自然体験を通して、心からの笑顔、充足感、高揚感を獲得できたことで内面の美を鍛えることに成功したと感じています。メディアや芸能界という「華やか」と言われる世界で活動する人たちの裏にある葛藤を取り除くためには、キャンプなどの野外活動は最適だと思います。自然は芸能の世界の荒波とは裏腹に、どんなものでも受け入れてくれる「どん」と構えた普遍的なものです。私は高みを目指して頑張っている子どもたちに「迷ったら焚き火」と言い、まずは外に出ようと背中を押します。子どもたちの笑顔が増える分、私はますます自分を受け入れることができ、キャンプを通して充実した日々が送れているからこそ私はキャンプで社会に恩返しをしていきたいと思っています。



大坪 紗耶 OTSUBO Saya

株式会社ミライエンターテインメント代表取締役 / ミス・ジャパン佐賀大会運営責任者
東京女子大学哲学科卒業。10代は芸能活動、20代は学生、30代は母として子どもを育てながら日本キャンプ協会認定のキャンプディレクター資格を取得。40代で人生の最大成として、ミスコンテストの運営を手掛ける。ミスコンのトレーニングビューティーキャンプの中には組織キャンプを用い、外見だけでなく内面の強化育成に力を注いだ。また組織キャンプの結核に岡山交通圏九州地方整備局武蔵川事務所の後援により、防災講座も実施。従来のミスコンのイメージから離れ、唯一無二のミスコンを推奨から送る。

キャンピング第203号<2023年 冬> 2023年1月15日発行

発行者 平田 裕一

編集 (公社) 日本キャンプ協会 CAMPING 編集委員会

委員 青木康太郎・今井正裕・翠尾由美・山梨雄一・山本直輝・吉松梓・AD 中島安貴輝

発行所 公益社団法人日本キャンプ協会

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1 国立オリンピック記念青少年総合センター内

tel.03-3469-0217 fax.03-3469-0504 E-mail: ncaj@camping.or.jp www.camping.or.jp

★キャンピングに関する感想をお寄せください。★キャンピングの配架にご協力いただける方はお知らせください。

次号 特集「豊かな地球を次世代につなごう! 環境に優しいキャンプの可能性(仮)」
予告 No.204 (春号)は2023年4月15日頃に発送予定です。

©公益社団法人日本キャンプ協会/写真、イラスト、記事のコピー・複製・転載を希望される場合は、ご連絡ください。

今月の表紙 「バックカントリースキーで」
絵 ● 村上康成



NCAJ
www.camping.or.jp

